

**令和 6 年度
地産地消に関するアンケート結果**

～資料編～

**2025 年（令和 7 年）2 月
藤沢市**

(26) このアンケート及び「地産地消」についてのご意見等がありましたらお聞かせください。

【1 藤沢ブランドの創出】

(1) 一次製品の創出

- ・藤沢、湘南のブランド化を推進してほしい。果物、野菜、魚、肉、ともに多く生産されていると思う。
- ・ハマナシのように藤沢の梨をもっとブランド化してもいいと思う。我が家の子供はシャインマスカットより藤沢の梨のほうをよく食べる。
- ・藤沢市は農水産物に恵まれていると思うので、それを活かして欲しい。
- ・藤沢は海産物や北部には畑も多いのに「鎌倉野菜」とか「湘南シラス」の名前に隠れてしまつてとてももったいないと思う。
- ・藤稔（ブドウ）、梨をアピールしてほしい。

(2) 加工品等の開発

- ・水産物について、野菜などに比べてスーパーで見ることが少ないように感じる。水産物の加工品などが増えたらもっと手にとりやすいのかなと思う。
- ・農業はよくわからないが、皆さんの（有志）力を結集し、再度農作物を作ったらいかがかと。例えばブドウからワインまでとか。

(3) その他

- ・元々、関西に住んでいたが、藤沢ブランドの物としてはシラスぐらいしか知らなかった。ブランドとしての確立と県外での販売促進も考える必要があるかもしれない。
- ・ブランド力という点では鎌倉野菜の方がはるかに強い。どうブランドを浸透させるかが課題と思う。
- ・藤沢に住み5年ほどだが、地のものとして思い浮かぶのはシラスのみ。それ以外はあまりパツとしない印象。ブドウや梨は以前、広報ふじさわに載っていたため、認識した。住んでいる人でも、藤沢の名産品はしシラス以外に思い浮かぶ人がどれくらいいるのだろうと思った。
- ・藤沢産をブランド化にするのは、いいことだと思うが、価格は抑えて頂きたい。

【2 給食供給強化】

(1) 給食における藤沢産農水産物の利用促進

- ・小学校の給食では、よく藤沢産の農産物を使ってくれていてよかった。中学では少し頻度が減ったように感じた。
- ・きっと私の知らない藤沢産のものがたくさんあるのだと思う。これをきっかけに意識して、食卓に並べて、子供達にも伝えていきたい。ただ、給食でも地産地消を教えてもらっているようで、すごく良い取り組みだと思う。
- ・トマトの廃棄が大量にあると聞いた（市内農家さんより）。B,C品も利用できるシステムができたらいいと思う。学校給食に寄付など。

- ・食材の高騰で給食の内容や量がどんどん寂しいものになっているように感じているので、地産地消の農産物を規格外の物などどんどん使って、学校などの給食でたくさん食べられるようにしてあげて欲しい。
- ・藤沢産は学校給食にたっぷり使えるほうがいい。神奈川県は食料はとて良いので農家さんも頑張ってもらいたい。
- ・市内小学校の卒業生で、給食で地産地消を知った。やはり大人になってからより、幼い頃からそのような情報に触れていたほうが定着はするのかなと思う。あと、美味しい給食で食に対する興味を育てるのも大切。
- ・江の島産のシラスなどの食べ物は藤沢市民に非常に親しまれていると思う。地産地消をより進めるために学校給食とのコラボメニューなど、子供が興味・関心を持つことを取り入れたら面白いと思う。

（２） 学校教育での食育

- ・地域の食材を摂る事が身体にとって自然であり健康的であるという考え方「身土不二」の理念を子供のうちから教育することが肝要。
- ・小学生の頃に体験したお米は藤沢で作られるイメージがまだ記憶にあるので、もっと学生に農業の体験をしてもらうことで地産の産業への理解が深まり後々後世へと伝えられていき、根深く地産地消の文化が浸透していいと思う。

【３ 普及啓発】

（１） イベント・講座の開催

- ・今回のアンケートで地産地消について興味を持った身としては 1 番にどんな食物があるのか、どんな味なのか気になるので、藤沢の食材を扱った料理のイベントを開催して販売するといったことがあれば参加したい。
- ・湘南台駅のイベントスペースで直売イベントを開催してほしい。仕事の帰りに買って帰りたい。
- ・身近な場所やイベントなどで販売して知ってもらう。
- ・市役所で平日開催されているサンセットマルシェの規模を拡大してほしい。
- ・ヨークマート、サミット、三和等の大型スーパーで物産展などを開催されていかがでしょうか。
- ・湘南ハマグリ潮干狩りとかがあると楽しい。
- ・三浦マラソンのように湘南もマラソンの時に大鍋で魚の出汁が染み込んだあら汁提供とか、野菜を使った料理イベントとか、とにかく生産収穫したものを形にするという料理例があれば一段と購買意欲が増す。
- ・山形の芋煮会や、三浦国際マラソンなどのように、実際に食せる食べ物を巻き込んでのイベントが藤沢市も欲しい。

- ・ワークショップを行って皆で地産地消に取りくんでいく、ざっくりではあるが、公的機関の援助も得て、もしも参加できることがあれば良いと思う。
- ・生産者と消費者の交流を盛んにして、藤沢産を身近にする努力をしてほしい。

（２） 藤沢産農水産物の表示

- ・地産地消のために、購入場所等を自ら調べることはないが、よく行くスーパーや八百屋に藤沢産とポップが出ているとつい買ってしまう。
- ・藤沢産ロゴマークや地産地消のアピールもその農水産物を置いているスーパーの配置コーナーの壁などに簡潔な表記で掲示するなどとすると見てもらいやすくなると思う。
- ・藤沢産のロゴマークを気にしたことがなかったが、（目に入ってなかった。）より普及すれば、より多くの方が買えると思った。ロゴマークを知った今は、同じくらいの見た目、値段で迷ったものがあつたら藤沢産ロゴマークがついているものを選びたいと思う。
- ・藤沢産のシールが貼られているとついつい買いたくなる。
- ・スーパー、コンビニなど藤沢産である物には「共通のシール」を貼るなど、どこで買っても藤沢産であることが分かるようにする。まずは藤沢産の「共通のシール」を認知させることから始める。「共通のシール」が広がれば一目で「これは藤沢産なんだな」とわかり優先して購入しようと思うのでは？
- ・スーパーで「藤沢産」のマークの野菜を見かけると１度立ち止まる。他の産地の物と比べ値段があまり変わらなければ、藤沢産の物を選ぶ。
- ・魚だと、魚売り場ですぐ食べられるよう焼いてあったり、煮たりしてあると手に取りやすいので、産地をかいたラベルなどを貼ると周知できるのではと思う。
- ・スーパーなど藤沢産を大きく明記して販売して欲しい。藤沢に住んでいる期間が短いこともあり藤沢市の名産品が正直よくわからない。藤沢＝江ノ島＝シラスのイメージが強く他の農産物の印象が薄い。鮮度や物珍しさで産直があれば利用しているが、有名なものや力を入れているものがわからないのでポスターなどあれば分かるようになるかもしれないと感じた。
- ・正直、“藤沢野菜”を知らない。ポップなどで教えてくれるといいな、と思う。
- ・藤沢に住む以上、その生産物を買いたい気持はあっても、利便性に欠けたり、見つけにくい棚に置いたりしてはダメ。生産者の説明文が付いた商品は目に付くが、藤沢産なのかわからないで素通りしている。
- ・思いの外、地産地消に力を入れていると感じている。「へえ～これも作ってるんだ！」と思い、購入することがある。現状の取組みを維持してほしい。藤沢産という文字を優先で買う。
- ・直売所にわざわざ買いに行くなんてありえない。お店に藤沢産と分かりやすく書いてあれば、品質がほぼ同じなら買う。
- ・スーパーで地産の売り場を見ても、あまり力を入れて推している感じがなく、寂しいような気がする。主婦は毎日のようにスーパーへ行くので、大変かもしれないが、ポップなどで盛り上げてあればもっとたくさんの方が注目して手に取りやすくなると思う。

- ・地域のものならわかりやすいように大きく書いたり、一目見てわかるようにしたりしてほしい。
- ・売場で「地産地消」の表示が目立たない。
- ・消費者に地産品である広告や店頭がわからない。市民である私たちは分かった時点では必ず地産品を選ぶ。

（３）量販店での藤沢産コーナーの設置促進

- ・大型モールに置いていた野菜の販売が最近無くなり、残念に思っている。地域産業の活性化になるように地元の食品を買いたいと思う。安全な食品は美味しいという意識が広がればいいと思う。
- ・人の行動を変えるより、行動範囲に入ってきてくれたら利用しやすい。（例）既存スーパーでの取扱いを増やす。
- ・スーパーの置き場を増やすとか、目のつきやすい場所にあれば、買いやすくなるかと思う。
- ・直売で野菜を毎週買っている。魚介類は近所のスーパーで江ノ島産が出ていると買うことがある。ただ、スーパーでは藤沢産の野菜は見かけることがほとんどないので、スーパーでの販路拡大は可能なら有効な取り組みだと思う。藤沢に限らず、神奈川県産の農畜産物、魚介類もスーパーにあると買いたくなる。
- ・地元の農家の庭先で売っているものを良く購入する。決して形は良い物ばかりではないけれど、新鮮でおいしい。大手スーパーでも専用コーナーで売っていたりして少しずつ浸透してきているのかなと感じている。
- ・藤沢産のものは野菜を購入することが多いが、珍しい色、形の品種に目を惹かれる。スーパーの地元野菜コーナーでもそれらが早くに売り切れている。品種を多く揃えたり、珍しいものを育てたりするのは大変だと思うが、興味関心需要、地元であるという認知度が高まりやすいと思う。
- ・スーパーで特別に売り場があり、採りたてや旬のものが置かれていることがある。藤沢産より近県産が多い感じがする。手頃な値段（数や量を工夫して）ならば藤沢産を購入したいと思っている。
- ・藤沢産の野菜や果物が美味しくて大好き。近くのスーパーで藤沢産の野菜や果物の取扱いをもっと増やして欲しい。
- ・週１で生協を利用しているが、近くのスーパーで鮮魚なども購入している。スーパーで地元農家の作物をもっと購入したいと思う。
- ・地産地消への期待はあるが、スーパーではなかなか見かけず直売所も見当たらず。
- ・スーパーでの取り扱いが増えたらいい。
- ・直売所は近くにあれば行きたいが、数を増やすことは現実的でないので、既存のスーパー、コンビニ等に販売の一角が作ってあれば、身近に目にするが増えて購入頻度も上がると思う。
- ・今、私自身は自転車にまだ乗れるので、鵜沼あたりで産直の野菜や魚を求められる。（スーパーでもこの頃は江の島の魚が売られているのは嬉しい）
- ・80歳以上なので、野菜、魚は多く、肉は少なめにいただいている。段々と買い物をするのに江ノ島とか藤沢などになかなか行けないので、できれば近くのスーパーなどで果物野菜、魚などを買えたらよい。

- ・スーパーなどの一角に売場があれば利用したい。
- ・スーパーに置いてほしい。
- ・スーパーなどでもっと気軽に買えればと思う。
- ・自宅近くのスーパーに地産の野菜・果物・肉・魚などがもっと並んでいたら買いやすいと思う。コンビニでも扱って頂けたら更に良いと思う。
- ・気軽にコンビニで売っていたら即購入と思う。
- ・身近なスーパーで売り場を増やしてもらえたら（野菜以外でも）もっと多くの人が手に取れるのではないかと思う。
- ・スーパーなどの量販店での藤沢産物の陳列場所、特に消費者の目につく場所の確保が必要だと思う。スーパーによっては片隅に置かれているところもある。
- ・JR 辻堂駅周辺の（徒歩 15 分圏内）のスーパー等の量販店での藤沢産の農水産物の販売を精力的に拡大することによって地産地消をさらに進めてほしい。
- ・スーパーなどにもっと地元産を扱って私たちが買いやすい体制を考えてほしい。新鮮で身近に購入可能なら少々高くても良い。
- ・私の場合スーパーの一角の地産コーナーで買っているのですが、そういうところで藤沢産の農水産物 PR ができればマークとともに周知できるのではと思う。
- ・目にする機会を増やすことで利用者も増え、自然に活性化するので、全スーパーにももっと藤沢産のコーナーを作してほしい。野菜類は特に美味しいので片瀬海岸地域でも扱ってほしい。
- ・地産地消を積極的に推進するときに大型スーパーでの多数の販売と宣伝、大型直売所の設置増加が必要であると思う。市民へのわかりやすい宣伝が必要だと思う。生産者、及び生産地域のわかりやすい一覧、地図等も欲しい。
- ・スーパーに入店後すぐ地産売場に直行している。
- ・農協などで販売しているのは知っているが、車がないので買いに行けない。近くのスーパーなどで新鮮な野菜果物販売していただけるとありがたい。
- ・最近になって、徒歩圏内のスーパーで藤沢産の野菜果物が、数種類は取り扱われるようになり、非常に身近で良い取り組みだと思うので、今後も入手し易い経路をぜひ開拓し続けて欲しい。
- ・JA でよく買い物をするが、閉店が早いので近くのスーパーやコンビニでも買えるようになっていたら嬉しい。
- ・藤沢産の農水産物を購入しようとしても、どのスーパー等でも見つけづらく自分から動いてインターネット等で販売場所を探さないと情報が少なく思い、藤沢市のどのスーパーでも藤沢産の農水産物を分かりやすく表示して、販売場所、取り扱いの店を増やしてほしい。
- ・日常の買い物（食料品）は主にスーパーで済ませている。その中で藤沢産や茅ヶ崎産で良いものがあれば購入することもある。駐車場が広いこと、ついでに日用品も購入できることもメリットになると思う。
- ・スーパー、小売店でも“藤沢産”を扱っている所は少ない。まずは売り場（店）を拡大することから始めてほしい。客は自然とついていくと思う。

- ・市が積極的にスーパーなどとの販路拡大を支援してみてはどうか。地産地消のブースを見かけるが、意外に市内ではなく鎌倉や茅ヶ崎だったりする。
- ・わいわい市はたまに行くが、場所が不便。街中のスーパー等で入手できればと思う。
- ・例えば地産地消のコーナーを作って消費者が意識をもって食材を選ぶようにする機会を持つ。またはより目立つようにするなど。
- ・市内の農水産物を販売する店舗が身近にあれば購入しやすくなるし、地産地消に関心をもつきっかけになるのではと思う。
- ・家の近くのスーパーに鎌倉野菜のコーナーがあり、よく利用している。新鮮で生産者の顔が見えるというのがその理由。藤沢産の野菜コーナーがあれば利用したいが、家の近くにはない。「おいしいレシピ」もわかればよりうれしい。
- ・直売所は車でいかなければならないので、スーパーに直売所のコーナーがあると嬉しい。
- ・毎日忙しい中での買い物は近所のスーパーが多く、なかなか藤沢産のものに出会えない。「買いたいのに買えない」という人は多いと思う。
- ・JAの直売所は有名で人もかなり見受けられる。近くのスーパーでも気軽に買える場所が増えればと思う。地方の野菜を安く仕入れ、地元野菜を軽視するスーパーもたまに見受けられるので、地元野菜に対して売り場の配慮も必要ではないかと思う。
- ・大型スーパーなどでも藤沢産のコーナーをぜひ設けてほしい。
- ・近くのスーパー等で藤沢産の品を多く取り入れてほしい。足が悪く遠くには買いには行けない。
- ・近くのスーパーでは野菜については地元産のコーナーがある。しかし魚介については時々目にするもののなかなかない。時々でいいので、スーパー内で魚介についてのイベントやコーナーを設けてもらえるといいと思う。
- ・歩いて買い物に行くには駅までには遠く、途中のイトーヨーカドーが便利だった。年明けに閉店なので、マンションではなく、マーケットを望んでいる。その1Fフロアに藤沢の「わいわい市」のような地元産の食材が買える店ができたかなと思う。
- ・スーパーなどでは数、種類が少ないように思う。
- ・スーパーでの「地場野菜特設コーナー」を設けてほしい。収穫してから店頭への時間が短いため、トマトの味がする。ほうれん草が甘い。（本物の味がする。）鮮度と美味しさを感じられる。
- ・地産地消素晴らしいことだと思うが、スーパーで見かけることが少ない。
- ・以前よりもスーパーで地のものが売られていると感じていて、良く手にしている。
- ・スーパーなどで見かける地産地消コーナーは端にあることが多く見落としがちだなと感じる。可能であればスーパーと協力して『目玉商品』や『広告の品』と同じような位置に『地産地消コーナー』を作るともっとたくさんの人の目や手に触れることができるかなと思う。
- ・スーパーでも、もっと地産地消コーナーが増えると積極的に利用しやすくなると思う。
- ・今は大型スーパーで週1～2回買い物をしているが、県外から来るものが多く残念。例：ナス→高知県、小松菜→茨城県、ほうれん草→群馬県等。これらは何とか藤沢で作っていただきたい。
- ・スーパーで販売してもらいたい。

- ・鵜沼海岸地区での地産地消の品物を販売する店は野菜類が一店、魚屋が一店。又、ローゼンの鵜沼海岸店内の小区画のみ。販売する店が少ないので増加してほしい。
- ・藤沢産の食品を多く利用したいが、販売所が少なく高いと思う。特に水産物は海が近い市なのに、ほとんど目にすることがない。スーパーやコンビニなど身近なところがあれば購入頻度が増えると思う。

（４）購入場所、機会の拡充

- ・直売所が少ないから増やして欲しい。
- ・直売所が近くにないので増やしてほしい。駅などでの販売も良いと思う。
- ・直売所を増やす。
- ・直売所や販売所を増やす。
- ・藤沢にはおいしい野菜や果物が多いのに直売所が少ないと感じている。
- ・規格に合わず廃棄になる野菜を減らすためにも、直売所を沢山増やしてほしい。
- ・わいわい市や市役所で藤沢産の野菜や肉類を買っている。直売所やスーパーの地産品コーナーがあったらいいと思う。
- ・地産地消を進めるには、もっと直売店を増やしてほしい。新鮮なものを安心して購入したい。
- ・昔は直売所がいっぱいあった。今は年寄りには遠くて行けない。
- ・地産のおいしい物を食べて健康に留意したい。もっと手軽に身近で買うことができればよい。直売所を増やしてほしい。（川名の野菜の直売所は長蛇の列ですぐ売り切れている。）
- ・規模が小さくてもいいので直売所が、家の近くにあれば購入しやすい。
- ・各農家での無人販売や週末のみの直売所の開設も生産者と直接話が出来良いと思った。（厚木市で見かけることが多かった）
- ・車を所有していないため直売所へ行く事ができず、スーパー等の小規模な売り場でしか買う事ができない。車が無くて買いに行けるように駅近や町内に販売所を作って欲しい。
- ・わいわい市藤沢店を利用している。午前中はとても混むので、もう少し小さいお店で良いのでお店の数を増やしてほしい。
- ・JA,わいわい市藤沢店をよく利用している。新鮮な野菜が購入できて気に入っている。直売所が増えると嬉しい。
- ・わいわい市の店舗を増やしてほしい。
- ・JA わいわい市みたいな店がもっと増やしてほしい。
- ・亀井野にあるわいわい市のような直売所が住まいの近くにあると、身近に感じる。
- ・南側にも JA の大きな直売所がほしい。
- ・わいわい市場のようなマーケットが駅近くにあると助かる。以前、市役所前の広場のイベントでたまたま地元野菜を購入できる機会があったが、ほしい食材がなかったので購入できなかった。とても残念。

- ・御所見地区にはスーパーがない。車がないと買い物に行けない。スーパーには地産品は多くはないのが高い。「わいわい市」のようなものがあるととても良いと思う。
- ・米ディのようなところが増えると良い。
- ・六会の直売所が混んでいて行く気にならない。駐車場を増やすか何かしてほしい。
- ・買い物の便宜上（高齢で）車の運転を終了したので、近くのコンビニ、スーパーを利用する頻度が多くなった。たまに、大型スーパーに行くと、地産品があるので買う。コンビニに置くことは難しいのか？車があるときはわいわい市に出かけたが、今は娘の休みの時に出かける。わいわい市行きシャトルバスがあると良い。
- ・駅で販売されると買いたくなると思う。
- ・道の駅があるといい。
- ・道の駅的なものがあるといい。
- ・道の駅があったら嬉しい。
- ・藤沢も道の駅を作り、地産のものを販売して欲しい。
- ・藤沢駅南口から467号線沿いには産直の店が無い。農協が扱う産直の店は値段が高いため流通が悪いのではないかと感じる。道の駅など地産地消できる店があるといい。
- ・地産地消にメリットがあるのは知っているが、単身者で量もたくさんいらぬし、車もないので、生活圏内に手軽に買える場所があれば買いたい。
- ・藤沢市外のコンビニで店頭あるいは店内のコーナーで地産の農産物の販売をしているのを見かけることがあり、手ごろな価格で購入したことがある。スーパーなどのような大量の卸をする必要なく、地元での消費が促され良い試みと思った。
- ・コンビニで買えるのと助かる。
- ・市役所などで定期的に売られているのは知っていても、平日の日中は仕事のため購入はできない。それは残念だった。近くのスーパーやコンビニで売られれば便利だと思う。
- ・藤沢の北部地域にも市場（肉・魚）を作ってほしい。
- ・もっと活気のある市場が点在してほしい。（フランスやアメリカのような海外にあるようなマルシェ）
- ・近所のスーパーでしか藤沢産の農産物を見ないため、色々な場所で取り扱いがあれば買いたいと思った。
- ・販売する場所を増やす。
- ・なかなか入手しにくいのが、イベントや朝市等でなければ買えないのか？
- ・駅（藤沢・辻堂・湘南台・善行等）構内での販売アピールを積極的に行うのはどうか？
- ・辻堂駅の構内やテラスモールを利用して販売促進を行う。
- ・安く売られているところに人が集まっている。市役所前などだとアクセスしづらいのもっとわかりやすい場所がいい。
- ・駅のサンパール広場とか市役所前とかで売ってほしい。

- ・藤沢産の野菜などをどこの公民館に行っても常にも買えるようになればより身近に感じると思う。（プチ直売所など）
- ・市役所の前で時々買う。さいか屋の前でやってほしいと思う。
- ・サンライズ広場、図書館前、藤沢市役所の5階や9階などを利用する。（休憩している方に宣伝）
- ・わいわい市に行くことがあるが各地域の公園など取り扱ってもらえればありがたい。
- ・以前、藤沢産のブドウを購入したいと思い直売所などを探したが、どこも住まいのある地域から遠く、車もない我が家では買いに行くのがとても不便だった。身近な場所に扱っているお店などがあると購入しやすいのと思った。近所のスーパーに地元産の野菜などを置いてあるコーナーがあるが、必ずしも藤沢産というわけでもなく、やはり生産量が限られているのではと思う。
- ・高齢化するなかで、身近な所で手に入れることができるようお願いしたい。
- ・メルカリなどで、野菜や果物（じゃがいも、玉ねぎ、さつまいも、みかん、りんごなど）も定期的に購入しており、なかなか外出が難しい時に通販で入手できる機会が増えれば、高齢者にとっては特にありがたい。
- ・藤沢市に長く住んでいる。御所見地区は（特に私の住む瀬郷）はスーパーがなく車に乗れなくなったお年寄りやパルシステムやCoopなどの利用、または時々来てくれる子供などをお願いするしかない。以前団地などは巡回のスーパーのようなものを見かけた。ここからはバスで茅ヶ崎方面へ（寒川町が多い）買い物に行くため、地域で藤沢産を買うことが少ない。外食時は藤沢駅や辻堂駅近くを利用するが。
- ・生活協同組合を使用している家が増えている。同じ販売方法をとれば売れると思う。
- ・片瀬地区はお年寄りも多く、買物で遠くに行けない人もこれからもっと多くなると思う。地産の魚や野菜など週に一、二度（曜日・時間・場所を決めて）移動販売があると助かる。
- ・老人の多い地区では重い買物荷物を持って坂を登ってくるのは困難。曜日を定めて、市の公園等に農産物を売りにきてくれるとありがたい。
- ・藤沢産食材を求めたいが、高齢になると買い出しに行くのも大変なので週1店でも近くにきてくれると嬉しい。
- ・わいわい市は大好きだが、買い物荷物を持って歩くのは大変。自宅まで届けてもらえるシステムがあればうれしい。（インターネットは苦手。）
- ・例えば水産物であれば、日、時、曜日等を決め海から遠い地域へも販売車などを走らせてもらいたい。海から遠い住民は一度も買い求めていない人が多いと思う。
- ・団地住まいなのでトラックみたいなので週に1回とか売りにきてくださるともっと嬉しい。
- ・生協の宅配やデポーとの取りくみも考えられるのではないのでしょうか。
- ・老人が身近で買うことのできる工夫を交通手段も考えてほしい。
- ・水産品の販売店が限られている。

- ・地元でとれる魚介類のしっかりした直売所が欲しい。地元の人も観光客も行けるところ（例：TOTOCO 小田原）。片瀬漁港のマルシェは種類も少ないし、並んだわりに品物がない。
- ・ハマグリ直売所は存在感が薄く、特産物としてのイメージが薄い。売り場もほとんど閉まっていて、いつ開いているのか分からない。店内が暗くてさみしい。
- ・地元の農家さんから野菜類はいただけるので旬の物がいただける。水産物はスーパーでしか買えないので、地元で魚屋さんがあったらいいなと思う。
- ・自宅近くで旬の物が買えるとうれしい。
- ・今の六会の直売所は、車か自転車があればいいかな。年寄りや歩きの人の場所が欲しい。
- ・買いたくても近くで買える場所がない。
- ・身近な場所で安く売ってほしい。
- ・販売場所を多くしてほしい。
- ・スーパーの地元野菜が売っているコーナーがあればよく買っている。普段の生活の中で入ってくれば買う機会も増えると思う。無人販売もよく買うけど畑が少なくなってきたのでなかなか買えなくなった。
- ・わいわい市が好きでよく利用している。市役所前での野菜販売に今度行ってみたい。こういう場所が増えるといいなと思う。
- ・もっともっと目にするのが多くなると購入しやすくなる。色々なところに藤沢産の場所があればいい。
- ・もっと購入できる場所、時間を増やしてほしい。仕事をしているとわざわざ朝早くなど、普段行かないところに足を運ぶことは難しいし、ネットでわざわざ探すのも手間がかかるので、普段の生活圏の中でももっと目に入れば買う機会は増えると思う。
- ・もっと色々な場所で見るといいと思う。
- ・扱っている店が少ない。あるいは探すのが難しい。もっと目立つような表示、置き方など工夫が必要。
- ・藤沢産の野菜等はわいわい市とかでしかあまり見かけないので、もう少し販売しているところがあれば購入しやすいと思う。もしくは、販売しているお店の紹介があるとわかりやすい。お得感があると嬉しい。
- ・常時使える店があれば買うと思う。八百屋に行っても目にするのは湘南キュウリ、藤稔くらい。
- ・午前中に動ければセンター等で買えるけど、売っている場所も少ないし、売っている時間も短い。残って居る時はラッキー、では当てに出来ない。最初からスーパーに直行してしまう。
- ・農家の販売所や漁業組合の販売所には行くことがあるが、いずれも販売イベントという形。

・スーパーの野菜売り場では、地域の野菜を毎回買っている。手に取りやすく、スーパーに並べてある同じ野菜よりも鮮度が良い。鎌倉が近いので農園の無人ロッカーで販売している野菜もよく購入する。スーパーに並んでいるものよりも、断然おいしいし鮮度がいい。スーパーには失礼かもしれないが、私のような考えの人もいるので売り方を工夫すると購入する人の目に留まりやすく地域の農水産物に惹かれる人が増えるのでは・・・と思う。食べたらおいしいので、そういう機会が増えたらと思う。

・市民会館前奥田交差点のところの広いスペースにお祭りなどで他地区の新鮮な野菜を売っているが、住宅マンション街横で目立つのですごく売れている。

（５）利用推進店の充実

- ・地産地消の食べられる魅力あるレストランなどを増やしてほしい。
- ・藤沢の野菜を使っている飲食店を利用している。とても安心で、こういうお店を増やしてほしい。
- ・飲食店に産地のものを使ったメニューがあると特別感があり注文することが多い。

【４ 付加価値向上】

（１）安全・安心

- ・低農薬で安全な物を供給してほしい。
- ・無農薬のものが沢山増えてほしい。
- ・極力安心安全のため、国産を選ぼうという意識はあるが、国内であれば優先順位はほぼない。
- ・輸入ばかりに頼るだけではなく、国産品のものを子供たちに食べさせたい。加工品も国内で行えるようにしてほしいと思う。安心、安全な食品（特に加工品）が手に入るとよいと思う。
- ・近くของものが安心だと思う。
- ・“安くておいしくて安全”これがアピールされていたらついつい買ってしまう。
- ・大規模な産地（鎌倉野菜のような）ブランド産地でなくともその土地のものが安心でおいしくできれば手に取りやすいお値段で手に入るとありがたい。
- ・私は農家さんが以前自分で直接スーパーに商品を並べているのを見たことがあり、この人が作ったんだ！というので購入したことがある。直売所だけでなく、スーパーなどで農家さんと話せるのもいいなと感じた。（現実的には難しいかもしれないが）スーパーに貼ってある写真以上に“顔を見て買う”の効果があると思う。
- ・水産物についても、PFAS/PFOSや海洋汚染の影響が気になり、神奈川県産にあまり惹かれない。

（２）新鮮な農水産物の提供

- ・新鮮な物を新鮮なうちに購入したいと思う。
- ・廃業等で新鮮な物が手に入らない。

- ・市役所前で売っているところに、時間帯や曜日が可能なら買いに行きたいと思っている。スーパーも藤沢産のものが入っているとそちらを買っている。新鮮でおいしい。
- ・わいわい市場は近いのでたまに利用している。野菜は新鮮でとても良い。
- ・少し高くても、質が良く美味しければ購入していきたいと思う。
- ・特に魚介類は鮮度が命なので、店の無い住宅地の中に入って時間を決めて売ってもらえたらありがたい。
- ・もっと PR してスーパーなどにも多くの場所で販売されると、買いやすいと思うが、消費者にとっても価格も大切だが新鮮でおいしいものを食したいと思っている人が多いのでは。
- ・地場＝鮮度は当たり前。生産者自身の営業努力を望む。農協も含めて。
- ・野菜や果物は特に新鮮であるほど味が濃く感じられるのでできるだけ地域のものであるようにしている。例えばトウモロコシ、枝豆、胡瓜、トマト。スーパーは味が無い野菜。地域はとてもおいしい味の濃い野菜。
- ・近いところで鮮度のいいものが手に入れることが一番。高齢者はわざわざ遠くの直売所まで買いに行かない。
- ・価格の安さも大事かと思うが、やはり新鮮さが第一。消費者に早急に届けられるようなシステムがあるとよい。

【 5 農水産業の維持・発展 】

- ・第一次産業を守り育てる仕組みをこれからも進めてほしい。
- ・日本の農産品は輸入品に頼っているところがあると思う。しかし、何かあると輸入品がストップしたり、価格が値上がりしたりして、不安定になりがちになると思うので、もっと藤沢産と言うことではなく、日本の農林水産業をもっと発展させてもらいたい。
- ・新鮮で美味しいものをそれに価格が安ければなお結構。農作物に限らず漁業も天候に左右されるので大変だと思う。そうした方々への配慮も必要なのではと思う。
- ・働き手がなくなり、遊休農地になっているのを見かける。
- ・今ある農家・生産者の方々が災害や高齢化によって廃業しないように、市・県としてサポートしてほしい。
- ・地産地消もいいが、農家、酪農、又漁業などの後継者問題も出てくると思う。今はよくても継いでくれる人を育てなければいけないと思う。
- ・日本は自給しているものが少なすぎる。
- ・地産地消は食糧危機の際の市民の食糧確保や輸送時の環境負荷低減にも役立つので、将来にわたり継続する必要があると思う。
- ・農家増加及び離農対策も進めたほうがいい。
- ・田畑を減らすことのないような対策や荒れた田畑を使用する、戻す方法も考えて地域の活性化につなげてほしい。

- ・女性 1 人で小規模な農業をされている方がいる。その方の野菜がとてもおいしい。大変そうなのに頑張っている。何か助っ人方法はないかと思っている。
- ・農業を続けられる人後継者がいない人が増えている。やはり生産者を増やしていかなければならないと思う。

【6 情報発信】

（１） SNS

- ・藤沢産のマークを知らず、目にする機会があまりなかった。藤沢産を藤沢住民が買うとメリットがあるようなキャンペーンや SNS を使った宣伝を行うなど、認知度をあげていてもらいたい。
- ・YouTube チャンネルに生産者特有のあるある話や雑学、あるいは生産者さんの中に趣味ですごい特技がある人の動画をあげる(ベテランの高速皮剥きとか魚を高速でシめるとか)などをしてまずバズらせて認知度を上げる事が大事かと思う。それから「実はこんなことやってるんですよ～」って地産地消について宣伝していくともっと色んな人の目にも止まると思う。神奈川が地元の Youtuber を招いてチャンネルの指導をしてもらってもいいと思う。
- ・SNS で地産地消について発信するのはどうか？

（２） 広報ふじさわ

- ・広報など利用して皆さんに地産地消を広めてほしい。野菜などのレシピも。
- ・地産地消推進計画を策定しているとのことだが、具体的に何をどうしているのかがわかりにくいのもっと PR してほしい。広報などもっと活用したらどうか。
- ・広報で発表。担当者の努力を期待する。
- ・農水産物をもっと身近に買うことのできる情報、身近で広報ふじさわや公民館からのチラシなどで PR を。

（３） 求められている情報

- ・昨年引っ越してきたこともあり、今回のアンケートを通して初めて藤沢市で地産地消を推進していることを知った。市内で生産している農水産物の具体的な種類を知りたいと思った。
- ・実際に藤沢産の食材がどれだけ存在するのかは、把握出来ていないので、もっとアピールして欲しいと率直に思う。
- ・藤沢産の食べ物などの情報を手軽に知れるといい。
- ・地産品の種類やどこで販売しているのかの情報が希薄。
- ・地産のものがどこで買えるか、何が旬か等販促活動をして欲しい。
- ・生産者の方の顔が見えるというのがいいところだと思う。あと、今の時期はこんなものが旬なんだと発信してもらえるとわかりやすい。（スーパーだと大体一年中同じようなものがあり、この野菜や魚、果物などはいつが旬なのか子供たちはあまり知らない気がする。）

- ・「地産地消」はぜひ推進していただきたい。普段の生活であまり見かけないので、どのようなものがあるのか知らない。まず、それが知りたいと思う。
- ・今年藤沢市に引っ越してきたばかりで市内産の食材のことはよく知らないので、もっと情報があると良い。
- ・野菜、魚類はよく知っているが、果物はあまり知られていないと思う。
- ・地産地消という言葉を知っているけれど、藤沢市で何が作られているか知らない人が多いと思うので、いろんな人に知ってもらえるように広めたら良いと思う。
- ・藤沢に引っ越して１年くらいなので全く特産品などが分からない。これを機会にもう少し藤沢の農水産物についても意識したい。
- ・味や品質など、他と比べて劣らない商品をピックアップし紹介してほしい。地産だけで買おうと思うほど、消費者の目は甘くないと思う。
- ・直売所の情報を知りたい。価格を安くする努力してほしい。
- ・取り扱い場所が知られていないのでは。
- ・近場で手に入れられる情報をもっと欲しい。
- ・地産地消は大切な取り組みとしてもっと発展させるべきと思う。いつ、どこで、何時頃から販売している情報が身近にあると助かる。
- ・直売所情報も欲しい。
- ・生産者と藤沢で何が作られているのか、知っているものは知っているが、知らないものを知る場、情報が無く、どこで得られるのかもよく分からない。販売店などの情報を常に広報されることを望む。
- ・横浜市から引っ越してきて漁港など一般市民が利用できたりするのか？情報がわかるとうれしい。
- ・藤沢市で育てられている食べ物についての情報を簡単に知れるようにしてほしい。また、その食材を使ってできる料理が知れると活用する人が増えると思う。
- ・野菜、果物や芋、栗などの収穫（果物狩りや芋掘りなど）の情報があとありがたい。果物狩り等は家族が好きで楽しみにしているが、いつどの農家でやっているのかわからない。
- ・農業体験などの情報があれば嬉しい。
- ・よく行くスーパーでは、生産者の方のお名前が分かる野菜が売られている。やはり顔が分かると安心して購入出来るように感じる。
- ・問 6 の H 2 1 年条例制定 & 推進計画をなぜ知らなかったのか→情報提供が乏しかったのか、生産者の意識が低いのではと思う。市民（購入者）のメリット（地元産は美味だが）インセンティブが明確に情報提供されているのか？
- ・地産地消のメリットは理解しているが、実際に地元の野菜がどのように（農薬など）作られているか、情報が得にくく、購入に至らない。

- ・地産地消とても良いことと思う。でも本当に安心して口にできるのか情報が不足していると思う。
- ・一重に地産地消と言っても、何が良くて何が問題なのか分かりにくく、他の農産物や果物などに比べ、特色が無ければ地元の人にも手に取らないと思う。
- ・生産者が同じ市の中の住宅地の人々に何を望んでいるのかも知りたい。
- ・地産地消のどの部分に税金が含まれているか知りたい。
- ・地産の金額（生産金額も）知りたい。
- ・藤沢市やその周辺は農業、畜産業が都市圏に比べて盛んであるが、市外域外の人のみならず市民ですら、そのことをあまり知らないのではないか？（観光資源となっているシラスは別として）

（４）その他

- ・ネット等を利用してもっとアピールしたほうが良いと思う。全体的にあまり知られていないように思う。
- ・市全体でもっとデジタル化を推進した方がよい。
- ・農家や漁師の直売所の場所がインターネットで閲覧できるように地図とかでまとめてもらえると買いに行きやすいと思う。
- ・転入者なので、小規模な直売所の情報を仕入しづらく（地域のネットワークに入れていない）こまめに SNS 等で告知されている小売店かやや遠い JA 直売所に行くかの 2 択。地域の直売情報をまとめてみられるポータルサイトがあると嬉しい。地図の上で最新の直売情報が見られたら便利ではと思う。
- ・藤沢市のゴミ分別アプリのような、藤沢市魚介類直売アプリで本日の水揚げ状況や購入ができるシステムがあるといい。
- ・市のホームページや藤沢アプリにて藤沢おもしろマップを作る。こどもの国や相模湖フォレストのような国内マップを作り、その中でこの場所でどんな野菜や果実を作っているのか、「健康と文化芸術の街」藤沢において農産物は文化であり芸術であり作品だと思う。そのほか散策路や里山、河、海この街全体がおおらかなアミューズメントパークであるものとする。市民の皆様と作る藤沢宝探しゲーム、より深くより優しくより健康的で文化芸術を楽しめる街へ。
- ・インターネットや講演会での説明を増やしてもすでに興味ある人しか来ない。（説明を最後まで聞いた人は無料で野菜などがもらえるような施策まですれば、新規の来場者が期待できるが）
- ・ネットはアップしても見に来ないので、アピールのやり方に工夫が必要。
- ・藤沢アプリとか作ってその中に藤沢の地図を入れてどこかをクリックすると市民の方々が撮ったフォトや情報がみられる四季折々の市民の方々が歩いて散策しながら発見して創造したこの街の懐深さと価値があるそこに創造と豊かさが生まれるそのことが健康寿命を長くさせ、しいては社会保険料費の低減につながる全国のオピニオンリーダーになってほしいと願っている。藤沢市って「健康と文化、芸術の街」と思っております。市民の方々が歩いて魅力を創造し発見して参加する。もっと藤沢が好きになるこの

歴史も面白いし凄い。藤沢アプリや藤沢ソムリエ一級、二級マイスターとか学びながら創造し発展して進化していく、健康になっていく。安全と安心感も生まれる。

- ・井出農園のトマトなどは、かなりメディアなどで取り上げられて有名だが、もっと官民一体でメディアを活用したマーケティングを行って、魅力的な農産物などを知ってもらう事が大事だと感じる。

- ・個人ではなく、まず、企業を取り込んで、展開していけば良いのでは。

- ・地元接客業がある企業と連携していけば、生産者は、お客様への集客と PR 同時に出来る。

協力してくれる企業を沢山巻き込んでみてはいかがか？

- ・講演会やイベント等の特別な機会を設けることも大切なかもしれないが、普段の生活の中で情報が発信されていて、藤沢産の農水産物を手に取れる環境があることが大切だと思う。

- ・直売所以外で旬の食材の PR をもっと身近なところで感じるまで徹底して行い、また藤沢の生産者を優先的に活用できるように価格や販売方法を多岐にわたって展開することで、地域内での意識向上が必要だと思う。藤沢ほど多岐に渡った農産物のある地域は他にはないでしょうから。

- ・アピールとしては顔が見える関係というのが重要であると思うので、地元の農家を作ってくれたこんな旬の野菜がある、など目につく場所があれば応援する気持ちから購入意欲が湧くのではないと思う。難しいと思うが、月ごとに変わる広告があればこんなものが藤沢で栽培されていて、今が一番美味しいなどと話題にもなるのかと思う。

- ・認知度が低いと思うので、藤沢市民以外にも知られる様なアプローチ方法を画策する。

- ・市から農家へ事業提携し PR を活性化すれば、地産地消はもとより、観光事業として市の活性化につながるのではないと思う。

- ・地産地消について市はもっと大々的に市民にアピールしてほしい。

- ・もっと地産地消に係る積極的な行動即ち、地域密着型の販売手法及び PR 手法を充実させて藤沢産をアピールすべき。

- ・このような取組は私を含めた多くの市民に伝わっていないようなので、まずは周知から始めることもよいのではないかと考えた。

- ・PR 不足のように感じる。地元の農家や漁業を応援したいと思うが情報を得る方法が分からない。

- ・農地＝緑を守る視点からも、農業の大切さを市民・学校で周知してほしい。

- ・もっと PR して売ってほしい。地産品の PR の仕方の工夫。

- ・良いものは買う。良さを具体的にアピールして行ってほしい。

- ・もっと上手に PR してほしい。

- ・もっとなんでもやってみるべきと思う。宣伝が足りない。

- ・藤沢産の食材とともに自分の故郷産の食材も意識して購入している。住民のほか出身者などへもアピールしたら良いと思う。

- ・情報の提供をお願いしたい。

- ・50年ぶりに地元に戻り藤沢にこんな農産物があったことを知った。（水産物は知っていましたが）宣伝が大事だと思う。（若いころはあまり関心がなかったこともあると思うが）

- ・藤沢産の「地産地消」について、全くその知識がなかった。ぜひもっと広報活動をしてほしい。

・情報は市民全般に伝わる（伝える）前提で、情報の発信方法を検討ほしい。年齢・手段・情報量など、日常の中でもっと容易に入手できると「地産地消」が推進できるのでは（常に考えられていると思うが）。もっとどんどん広く宣伝したらいいと思う。

【7 購買欲促進】

（１）農水産物の価格

- ・一般的にわざわざどこかへ赴いたり、インターネットのサイトやチラシをしっかりと読んでまで知識をつけたりしたいという人は残念ながら少ないので、まずは実際に食べてもらい、選択の１つに入れてもらう必要がある。近くの普段使いのスーパーで気軽に非・地産地消品と同価格で購入できる必要がある。
- ・価格差に関しては期間を決めて「試してみよう藤沢産」キャンペーンのようなものを実施し、非・地産地消品との差額分を市で負担する。
- ・地産地消の農産物は高い、と感じる時もあるので値頃感が欲しい。応援はしたいけど支出は抑えたい。
- ・地産地消制度が価格的にも買いやすいのであれば、嬉しい。
- ・どうしても高いイメージがあるが、実際はどうか？
- ・近くのスーパーでも鎌倉野菜や地元の野菜を売るコーナーがありみんな興味がある様子。私も興味があるが今の物価高でやはり値段を見て決めてしまう。同じ商品だと地元の物のほうが少し高い事が多い。値段が同じか少し安ければ地元のものを買う人はもっと増えると思う。
- ・（25）の間の内容はどれも必要なことと思いつつ、食料品高騰の中、低所得者（家庭）、高齢者（年金生活）者への視点が欠けているのではないかと感じる。ある程度豊かな（所得に恵まれている）家庭でなければ、地産地消（を思っても）を実行できない。
- ・高いものは買わない。
- ・ぶどうの藤稔を買ったが藤沢産と県外のものがあったが県外産の方が安かった。
- ・物価高なので安価な商品は助かる。例えば「わけあり地産」を安価で購入出来ればうれしい。
- ・野菜など新鮮で良い品物だと思うが価格的にはスーパーの方が安いと思う。
- ・地産地消であればもう少し安いはず。なんでも高すぎ。輸送費人件費時間等がおさえられるはず。
- ・地産地消、すごく応援しているが、最近は価格が高く、産地ではなく価格で選んでしまう。様々な野菜を口にしたいけど、手が出せないことも多く、応援できないことが多い。
- ・地産地消は高いイメージがあるので安くしてほしい。
- ・「地産地消」をうたっている商品はだいたい高い。県産の他地域のものとは比べ高いのはおかしい。特にブランディング戦略を全面に押し出している業者は消費者の気持ちなどまったく気にしていない。
- ・藤沢産の果物を食べたいが高価なため手が出ない。梨、ぶどうなどもっと安くなることを希望する。
- ・頻繁に購入する食料品は価格で選ぶことが多い。地産なら輸送費などを考えると低価格を期待する。
- ・スーパーでも野菜コーナーがあるが割高で買ったことがない。

- ・近場で野菜や魚介類が割安で販売している所があれば、行ってみたい。
- ・トマトなどよく購入、シラスもよく購入（値段は変化しなくてよい）。
- ・年齢が若い時は車で購入に行った。果物でも最近は車を運転しなくなり購入がむずかしい。以前は農協など沢山購入したが、他の方に聞くと農協は値段が高いという人が多い。
- ・時々市役所の前で野菜を見るが値段が高くて買う気になれない。
- ・とにかく、なにもかも価格が高く、食費をいかに減らせるかと考えている。地域の食物がお手軽に手に入るとよくなると思う。生活、本当に苦しい。
- ・価格が決して安くはない。
- ・直売所について販売価格はスーパーと変わらない。少しでも安くしてくれればもっと行く。
- ・直売所などで地産の野菜等を購入したことはあるが価格は安いといえない。スーパーに御せないものを置いている感だ。形が不揃いでも味が良ければ購入するがわからないので不安で手が出ない。
- ・消費者としてはこの物価高の時代に高値の物にはなかなか手が出せない。市役所の前でいろいろと売られているが、思ったより高かったりすると控えてしまいスーパーで他県のものを買ってしまう。おいしいのはわかるが、一度購入してもらうためにはいろいろな場所で安価（スーパーと同じくらいの値）に販売してほしい。（交通費がかからないのなら・・・）
- ・藤沢ブランドで値段が高いイメージをもっていた。（井出農園さん等）そのため、個人の畑で採れた無人販売所は利用してもスーパーの一角にある藤沢産の野菜コーナーはほとんどチェックしてこなかった。環境負荷の軽減につながるので利用したいと思いつつも家計を考えると安いものを選んでしまう。
- ・毎日曜日に野菜果物色々売りにきて、安く購入している。
- ・地産のものを安く提供してほしい。
- ・激安で良品を供給してほしい。
- ・不景気もあるが安価な商品を選択している。商品の付加価値をアピールしてほしい。
- ・藤沢産の商品は近郊農業に胡坐をかいて努力、価格等あまり安くない。
- ・藤沢産の野菜やお肉が身近で適正な価格で売られていたら、購入していきたい。
- ・六会のわいわい市をたまに利用するが、価格はスーパーと変わらないか高いと感じてしまう。
- ・農水産物も高くなってしまい、スーパーでもなかなか手にするのにためらいが出てきてしまう。そんな中 JA 等の直売所で少しでも安く購入できるのは本当にありがたいし、市内産ということで安心感もある。もっともっとと広めていくのは大変だとは思いますが、地道に頑張っている。
- ・また（23）で「価格が安い」とメリットを上げているが、ほかの商品と比べて高いので手が出せない。もっと農家が盛んな地域のほうがスケールメリットで販売価格も安いのかなと思った。
- ・地元産の魅力は鮮度、安心、安全だと思うが、物価高の中で少しでも安いものを買入したいと思っているので、いくら鮮度、安心、安全でも価格が高いと買えない。スーパーなどで広告の品などで安ければそちらを買っている。

・スーパーやコンビニ等で見かける地産地消コーナーの野菜はあまり安さを感じない。それだと安く買える他地域や外国産の商品を買う人も多いと思う。輸送コストが抑えられるのであれば少し安くしてほしいと感じるし、低価格が難しいのであればそのほかに何か付加価値が必要だと思う。（例えば商品を購入するとその畑で収穫体験ができる。とか農家さんならではのおいしい食べ方を紹介するメニュー表や動画の URL をつけるとか。）

・私は市役所の月・水・金の時に時々買っているが、以前は肉や魚も買っていたが、あまりにも高くなっているので買っていない。市のほうで少し援助はしないのか？

（２）規格外農水産物の販売

- ・包装は簡易で、形も規格を外れていてもいい（小さい、曲がっている etc）ので、安価だといい。
- ・形が悪くても安く新鮮なものは需要が高い。
- ・スーパーの規格外品、いわゆる「わけあり」商品を近場の利を活かして安く販売する方法はないか。食品廃棄物の減少手段としても・・・
- ・農薬を少なく使った野菜、曲がっていても気にしない。
- ・地産の場合、キズなど市場に出せないものでも食べられるものは安く販売する。
- ・新鮮で栄養豊富であれば形、虫食いは気にしない。地産でも売れ残り始めたら価格は下げてほしい。
- ・最近「Ｂ級」とシールを貼られた野菜を求めた。地産地消だからこそ市場に出せない野菜をもっと購入できるようにするのでもいいと思う。
- ・地元の産物を消費していきたいが、味は変わらないのだから、曲がったり形の悪いものも購入していきたい。新鮮で安いもので地元産だと安心。
- ・地産地消というと生産者を守るという意味合いが強いが、購入者にもメリットがないとなかなか難しいと思う。地元だからこそ買える「見かけは悪いが美味しいもの」「規格外のもの」などが安く買えるなどのメリットがあれば地元の人にも買いに行きやすいと思う。
- ・大きさなど不揃いなものや、傷があるものなど、低価格で販売するといいと思う。アウトレットみたいな感じ。もし、すでにあるのなら、よく知らないので情報を発信するいいと思う。
- ・スーパーではできない、規格外やＢ級品など売って（安く）いただけるとうれしい。

（３）その他

- ・価格や認知度で藤沢産に勝る農水産物が多々ある中で、私たち市民が日々の食卓に藤沢産のものを並べるには、相当の動機が必要。
- ・単に藤沢産であることだけでは弱く、どれだけ付加価値を付けていくか、特別感を魅せていくかが重要。
- ・それらの藤沢産の農産物や牛乳・ブタ肉・魚・貝を売り出したいという意向が市政府にあるのであれば、それを現場に任せるのではなく、市が戦略を立てて実行するのが良いと考える。

- ・昨今の藤沢市民の人口増加に伴い地産地消の需要への期待はますます高まると思う。藤沢市を市民感覚の伴った第一次産業活性化につながるために官民一体で取り組まれることを望む。
- ・「形が悪くても新鮮」「化学肥料農薬を抑えている」「安価」等のもっと送伝があってもよい。

【 8 その他 】

（ 1 ） アンケートに関する記述

- ・藤沢産ロゴマークも知らなかった。今後はきっと買い物や飲食での場面でロゴマークがあるか探すようになり、気にすると思う。アンケートはもっと沢山の人にしたらよいのでは？
- ・今後は任意でメールアドレスを入力できるようにして、入力した人には集計結果が出たらリマインドしてほしい。結果が出るころには絶対にこのアンケートのことを忘れているので。また、こうしたアンケートは市政がどういう取り組みをしているかを知ったり、調べたりする機会になるので頻繁にやってほしい。地方創生ともリンクする施策であるので、是非、推進してほしい。私もできることから、協力する。
- ・このような回答を求めるアンケートはランダム（3000人）とあるが当方には数年間に何回も送られて来るがどうもランダムではなく送付先にはある程度固定されているではないか。また送付先の人間の健康状態は知る由もないがなぜ回答があるまでアンケートを送るのであろうか。
- ・条例と計画がアンケートと同時に見られると良かった。
- ・アンケートの記名により今後はクオカードなどの協力費。
- ・ネットでのアンケートではなく、手書き、封書でのアンケートで安心して答えることができた。娘に「本当に市役所からのアンケート？」と心配されたので。今まで地産地消に関心なかったが、これからは少し気にして買い物しようと心がけたいと思う。
- ・この頃公的アンケートが多くなり本物か偽物かわからず不安。
- ・「何か工夫して」と言われると長いアンケートを作って発表してそれっきりやった気になり終わっていく。市民税がムダです。
- ・この集計作業に要する時間とコストを考えるともっと効率的なやり方があるのではないか。
- ・意味のあるアンケートか。切手代を出してまでするアンケートか。もっと違うことに使うべき。少子高齢化で子供への教育に金を使うべき。高校、大学を全額無償化など・・・無駄な金を使ってほしくない。
- ・アンケート結果ホームページだけでなく広報にも上げたらよいと思う。ホームページをあまり見たことないので。

（２） その他

- ・生産者に直売所の設営の補助金があれば個人店がもっと増えるのではと思う。
- ・例えばペイペイのポイントアップのキャンペーンをするとどうか。
- ・以前にやっていた買い物券（例・１万円分で１万２千円チケットみたいな）で買えるを買う動機にはなるかと思った。
- ・市民対象のクーポン券配布。
- ・ポイントカードの常時実施。
- ・例えば地産地消の物産を買ったら、たまるスタンプ（またはポイント）で、その物産＆生産者の直接的な支援ができるようにするとよいかも（ポイント 00→農家への支援（支援金？）→次の生産支援、とすることで消費者も生産に擬似的に関わる仕組みとか。
- ・地域を活性化し、体にもいい。ただ、イベントや体験会はその場だけになると思うので、続けるためにはユーザーのプラスになること、ポイントなど導入するといいいのかも。
- ・インフレにより生産コストが上昇することや生産者の高齢化などで供給サイドの問題に行政がサポートして地産地消を活性化してもらいたい。
- ・輸送に伴う CO2 排出削減のため、最大限、地産地消の政策を進めてほしい。
- ・周辺の市との連携。
- ・介護老人ホームなどと生産者が直結して利用するのがいいとは思いますが。生協等の宅配システムとの連携が便利。
- ・藤沢市は近い市や町からの通勤、通学が多いので、地産地消を藤沢近隣まで広げるのがいいと思う。
- ・近隣の町に比べ藤沢市は昨今何事も発展の遅れを感じる。藤沢駅周辺改革、近々始まるようだが、このような機会に思い切った改革を行ってほしい。
- ・無人販売してくださっている方々ががっかりしないで（１００円です、２００円ですと提供してくださっているのに、お金をきちんと入れない。）、提供してくださる支援をお願いしたい。
- ・地域経済の発展につながる施策を。
- ・食糧自給率を上げるためにも市内だけではなく国に対しても意見を挙げてもらいたいと思う。
- ・地産地消は“認知症の老人を預かる施設での取り組みに土地の“こうじ”をつかったみそや甘酒が悪化防止（遅延）につながるという話”を耳にしてから興味を持った。そういった取り組みで成果を見ることができると益々広まると思う。腸と体、頭、アレルギーとの関係は大きなつながりがあることから、ていねいな取り組みで市民の健康をより良くできるとよい。
- ・消費する側だが、生産に何らかのかたちで携われないかと考えることがある（農業が大変なことは承知しているが…）。
- ・近藤牛乳は工場周辺の狭い道路にトラックの駐停車などあり迷惑。
- ・高齢な為、買い物は簡単に済ませる。
- ・年齢もあり買物に労力がある。ましてインターネットは出来ない。
- ・買い物弱者な為、品物を選択出来ない。

- ・藤沢産があることは知っているが、高齢者にとってはインターネット、スマホ、直売所に行くことなど不可能に近い。
- ・年齢とともに藤沢産の農水産物を取り扱っている店に行くのが遠のいているのが残念。
- ・今はこれで良いかなと思っているが、歩けなくなった時は考えなくてはいけない。
- ・地産地消をあまり気にしていなかったが、その意味で言えることは「わいわい市」にも時々行っているの
で貢献していると思う。ただ、道路が込んでいることに加え駐車場が狭いここがネック。改善できないの
か？例えば右折可の信号にするとか（藤沢方面からの進入）駐車場を広げるとかを要望する。
また場所を分かりやすく広報すること。
- ・「地産地消」という概念を改めて市がどう考えているか知ることができた。私も直売所に行ったことがあ
るが、地元で加工されたものではないものを売っていたのは「地産地消」とは違うのではないかと思っ
た。少なくとも大学の講義ではそう学んだ。
- ・あまり地産地消のメリットを感じられないのが残念。
- ・今回のアンケートが地産地消の発展、推進に繋がるといいと期待している。
- ・私は1年半前まで茨城で暮らしていて、大学入学とともに藤沢市に転入してきた。茨城県では小、
中学校の時に地産地消についての授業や学校給食があり、年齢的にも野菜などを買う機会はありません
でしたが、地産地消について意識はできていた。藤沢市に引っ越してきて地産地消という言葉をあ
まり意識出来ていなかったが、このアンケートで地産地消の沢山のメリットを改めて知ることが出来た。
これを機に意識出来たらいいなと思う。
- ・東京や埼玉近辺に住む友人に藤沢の名物を聞かれることが多々あるが、「湘南しらす」という回答
しかすることができていなかった。しかし、このアンケートを通して藤沢は地産地消に積極的に取り組ん
でいて、また食べ物意外にも植木などが地産地消の対象になっていることを知り、とても勉強になっ
た。今後、藤沢のおすすめを聞かれた際には参考にしたいと思う。
- ・全てのものが地産地消できるわけではないと思うが、自分が気に入っているものは特に地元産にこだ
わって活用していきたい。
- ・藤沢産ロゴマークがあることをこのアンケートで知った。積極的に購入したい。
- ・今回この様なアンケートが来て「地産地消」を知ることが出来た。今後は購入時に意識を高めて買
いたい。
- ・地産地消は非常に重要な取り組みだと思う。
- ・「地産地消」という言葉は日頃特別意識していなかった。
- ・「地産地消」は身近なところにあったとこのアンケートで気づいた。
- ・地産地消についてあまり意識していなかったのが、これからは少し意識して野菜や魚介類などを購入
しようと思った。
- ・地産地消について言葉は聞いたことがあっても特に考えたことはなかった。藤沢の美味しいものもっと
詳しく知りたいと思った。
- ・「地産地消」にコツコツ取り組んで行くことで、日本の農業を守り、食料自給率アップに繋がって行くこ
とを願っている。

- ・地産地消のメリットがわかると、購入の気持ちに繋がると思う。地元の地産地消については考えたことがなかったが、このアンケートを機に地元民として考えたいと思うようになった。
- ・地産地消にはいいことだと思う。出来れば藤沢産を購入したいと思う。
- ・機会があれば市民は応援したい気持ちは十分にあると思う。
- ・藤沢市の地産地消の取り組みについて全く知らなかった。もう少し気にかけて購入していきたいと思う。
- ・藤沢産の果物や野菜は近くに直売所もあるのでよく買うが、牛乳やお肉、魚についてはわからない。これをきっかけに関心を持って探して食べてみようと思った。
- ・当地は新鮮な野菜、果物、魚介及び花、植木などの産地であり、居住者と生産者が近接した環境に恵まれている。「地産地消」に関する条例を知らなくも十分に日常生活において意識している。
- ・私は産地を気にしない消費者なので「圧倒的においしい」とか「安い」、「広告などでよく見る」などがないとあえて藤沢産を選ばないと思う。だからこのアンケートをきっかけに今までより意識すると思う。
- ・藤沢市といえばと質問をされたときに、パッと個人的に思い当たるものがなく、市でこのような取り組みを積極的にしていることがいいことだなと思った。地産地消への取り組みを応援している。
- ・このアンケートを通じて、藤沢市における地産地消の取り組みの意識について自分が理解しておらず、また日頃の生活を通じては理解していくのが難しいなと感じた。
- ・このアンケートで藤沢産のものがたくさんあることを知った。普段スーパーで国産か外国産かでしか意識していなかった。これからは藤沢産のものがいいか見つけようと思う。
- ・消費者に知ってもらうことが大事。今回のアンケート調査は良いアイデアだと思う。
- ・昨日このアンケートきっかけに JA 藤沢わいわい市に行った。近所ではないため普段なかなか行かないが、この機会にまた利用しようと思った。（直売所、駅の近くにも出来たらもっと利用しやすい。）
- ・これからも藤沢産の農水産物を購入して「地産地消」を応援していきたい。いつもおいしい農水産物を頂けることに感謝している。
- ・安心安全な食生活と生活できることに感謝している。
- ・地産地消の推進は地元愛の向上や地域の活性化につながる取り組みだと思う。藤沢市の活動がより良い成果を生み出せるよう願っている。
- ・郷土愛は誰でもあると思う。
- ・地産物をもっと増やしてほしい。農業水産課頑張れ。
- ・環境問題にとっても興味があるので、今回のアンケートにあたり嬉しかった。地産地消応援している。
- ・いつもできるだけ地産地消に協力したいと思っている。大規模生産者ではなく、小さいけれどおいしい生産者のものをもっと販売してほしい。
- ・「地産地消」を応援したい気持ちはあっても、自分が全く知らない、わかっていないことに、このアンケートで気づいた。もっと意識して、藤沢産ロゴマークを見つけようと思った。
- ・日頃の農作物など気が付けばよく見て購入している。特に果物等は車で通る所に気が付けば立ち寄っている。

- ・地産地消はあまり意識していなかったが、藤沢市に住んで田畑の美しさや採れたて野菜果物の美味しさに触れ、近隣の方が生産した物を購入したい思いが強くなった。出勤日は直売所に行けないのでスーパーで買ってしまうが、スーパーの地元野菜コーナーで買うこともあり、休日に直売所に行ったりしている。
- ・長後地区は農家も多く、我が家では長年にわたり農家直売を利用している。今後も積極的に利用していきたい。
- ・わいわい市をよく利用させていただいている。お花も買えてうれしい。贈り物にラン類も手頃でいい。
- ・収穫体験を家族で楽しんだ。ズッキーニが思いがけない形になるのを見て新たな発見だった。生産者の方が大事に育てていて、笑顔で説明して下さったので、その方が出店しているスーパーではあえてその方の野菜を見つけて買っている。収穫体験のために休日出勤して下さっている市の職員の方にも感謝したい。
- ・すでに藤沢産野菜等使っているレストランに注目している。魚売り場で江の島産の魚を目にするとうれしく思う。小田急線 善行～六会の車窓から見る畑も気になっている。もっと地元の食材が広がったら素晴らしいと思う。
- ・いつもスーパーや市役所前に「地産地消」の売り場があると見ている。またちょうど必要なものがあると購入している。なんでも値段が高くなっているので「地産地消」のものありがたい。
- ・地産地消の品の購入先は農協に月一での買い物で野菜が主。魚介類は販売先が不明で購入したことはない。
- ・花について、藤沢産の生け花をよく見かける。スーパーなどでも買いやすくまた安いので助かっている。小売店の花もきれいで手に取りやすく藤沢産のものとされると花がまず浮かぶ。
- ・遠藤の JA「じものさん」でいつも野菜を購入している。とにかく新鮮で安価で美味しい。ここに住んで良かったと思えるので、これからもずっと長く続いて欲しい。
- ・現在市役所前に水、金に購入している。お願いすれば送ってもくれる。
- ・藤沢の花（洋蘭やシクラメン）は素晴らしい品質だからもっと売り出していいと思う。贈答用として生産者直売のところに買い求めに行くが、駅周辺で又はスーパーで期間限定でも気軽に購入できるとうれしい。
- ・小田急を使い六会駅から徒歩でわいわいへ。車がないので久しぶり。花や野菜は確かに新鮮。ほうれん草、値段高い？と思ったがさわった瞬間ぱりぱり重い量の多さにびっくり。車の免許がないので近くにあれば花も欲しかった。ただし水産物はまるでない。たまに魚つるで売っている江ノ島のアジは平塚よりもともと少ない。
- ・地産地消もやり方で喜ぶ人々がかなり多いのでは。
- ・頑張って藤沢の良さを広げてほしい。
- ・生産者の皆様頑張って。
- ・生産者さんたちの努力に感謝。
- ・生産者の方々を応援している。
- ・消費力は少ない。これでは地産の方々にも立って行けないなと気毒に思う。

・藤沢の地産のものといってもピンとこない。何のための地産消費なのかわからない。もっとやるべきことがあるのでは。

・他の複数の自治体、また省庁で、行政DX、農業IoT、観光DX・面的データマーケティングなどに、フェローやチーフマーケティングテクノロジーオフィサーとして携わっているが、藤沢市役所が発展（人口増）を引っ張っているというより、そもそもヒトの受け入れの良さと湘南ブランドがそうさせている（もちろん学校・産業誘致等は知ってはいるが）ということ忘れてはならない。広報等で見ると諸々の政策にはエースがなく、満遍なく…の特徴のなさが目立ち、だから、地産地消の施策もかすんでしまうのではないかと感じている。

・食べ物はどうやってできるのかを知ること、安定して確保し続けるためにさまざまな努力が必要であることを想像して共感できるのではないかと。その上で、農業をやる人が農業をやっても生計が立てられ家族が農業で食べていけるものだというのが当たり前のこととして一般に認められるような職業にするため消費者としてできることを気軽にできるようになると良いと思う。やはり「買う」ことがしやすい環境づくり。

・日本大学生物資源科学部に勤務しており、以前、学内の食品のプロジェクトにも参画していたので、学内で魚醤のプロジェクト（江ノ島周辺の）に参画されている先生の話も聞いたことがある。また、個人的に魚釣りも好きなので（主にカワハギ釣り）、片瀬江ノ島港から釣り船で釣りにも行く。また、私は山口県出身で、藤沢のスーパーでも山口県産のキジハタが並ぶこともあり、よく購入する。キジハタは以前は超高級魚でかなり高かった印象だが、最近は稚魚の放流の成果で漁獲量が増えたようでかなり安価になってきている。また、これとは別に大学での研究で、この周辺に生えている雑草を使い、花を咲かせるホルモンの研究をしている。さらに昨今では、これらの雑草に加え、果物、植物性食品中の抗がん物質を探す研究も行っている。これらが将来的に地産地消に何らかの役に立たないかと考えている。

・藤沢はとても勢いのある街だが、ぶどう藤稔の発祥地でもあるように農業、水産業が盛んなことも魅力的。消費者と畑が近いのが藤沢の魅力だと思う。試してみて美味しい、良い、また買いたい！と気に入ってもらえれば、今度は助成金なしで購入してもらえるはず。※多くの人に気に入ってもらえない場合は品質や味など生産者側の問題なので別件として改善が必要。

・生産者、漁業者、藤沢市民、皆が豊かになる藤沢市になってほしい。

・販売している人はレシートも出さないのかちゃんと税の申告をしているのか。税の申告をしていないのであれば消費税くらいは安く販売すべきと思う。

・自宅近くの農園の無人販売所やワゴン車で直売する農家さんなど新鮮で安価なのでよく利用している。

・チラシ、パンフレット、講習会、イベント。費用ばかりかかり効果がないものはやめるべき。△藤沢産の卵と平塚産の卵とどう違うのか？説明できないのなら藤沢産を語るべきでない。例えば「平飼いしか認めてません。」とか言えるように。皆が地元産を自慢できるように導くのが行政の仕事。

・「おいしい」は正義。

・自分自身もすごく大事なことだと思っているが、近所のスーパーには地産地消コーナーはない。価格

も気にしているので、なかなか行動に移せていない。地元の農家を地域全体で応援していくことが、藤沢地域の活性化にもつながると思うので、ぜひ教育（小学校での地産地消についての取り組み）、広報（駅、サンパール、広報誌）、販売（駅でのブース出店、大型スーパーの取り組み推進）での地域の人への取り組みのアピールがあると嬉しい。地産地消について知ることは地域の活性化につながると思う。

- ・湘南ハマグリ、シラスなどは地物とうたって、ほかの地域や輸入物を使っている飲食店があると聞くと、どうなのか？観光地などはしょうがないのか？

- ・スーパーへ買い物に行って、しらすなど江の島産とあると手に取る。色んなスーパーで地元の野菜コーナーがあり生産者の顔や、作っている物へのこだわり、食べ方など表示してあり地産地消についてとても身近なものだと感じている。また今回アンケートが届いたことにより立ち止まって地産地消について考えたり思いをめぐらせたりした。息子も小学校の時キュウリモぎに学校で農家にお世話になり「子供のころから地産地消が始まっていたんだな」と改めて思った。

- ・県内のほかの市で生まれ、幼少期を他県で過ごし、17歳の時から現在（20歳）までの3年間藤沢市に住んでいる。小学校の授業で「地産地消」について学び、スーパーマーケットの地元産コーナーをよく意識するようになったほか、給食でも積極的に市で作られたもの、県で作られたもの（及び伝統食、郷土料理）を出していただいたり、食育で知識を身につけたりと恵まれた環境だったと思う。それもあって、現在住んでいる藤沢市の取り組みに関してはまだ情報が不十分なところがあり、「藤沢の有名な食材は？」「藤沢の郷土料理は？」と聞かれたとしても、答えられる自信がない。住んでいる街なので、もっと身近に感じられるイベントや、郷土料理などを食べて地元の歴史や地理から地元産のものへの理解が深まれば、もっとこの街に誇りと自信を持ち、周りに紹介出来たりおすすめできると思う。

- ・肥料や燃料が高騰する中、農家の方々が農業を続けていくことができるよう、皆でサポートしていければ良いと思う。

- ・個人的には「鵜沼かぼちゃ」が衰退するのが大変残念。古来からの日本かぼちゃの味として市でも大切に継承し守ってほしい。そういう活動が真の意味での地産地消ではないか。

- ・引越してから半年で藤沢のことがまだよくわからない。地産地消と言われても、どれが藤沢のおすすめなのかよくわからない。もっとPRすることが大事。以前住んでいた処はカボチャでも品種が表示されていた。道の駅等が多かったこともあり、地域自慢のかごり巻き寿司等が並んでいた。料理講習会も開かれていた。小さなグループでもできる講習会等があれば参加してみたいと思っている。これが藤沢の名物ですという農産物の名前が出ているものは今まで見たことがない。

- ・たまにわいわい六会店で購入している。美味しいお野菜や果物をついつい買ってしまふ。美味しい野菜を買ったり、買った野菜で何を作ろうかと考えながら料理をしたりするのが好き。

- ・藤沢に転居して60年、海あり山あり小さく浮かぶ江の島その知名度は全国的。野菜、魚露店を見つけた時の嬉しさは別格。泥のついた野菜に、光る魚、鮮度抜群。湘南の風に幸あれと祈る今日。元気の源。日々食卓を賑わせてくれてありがとう。露店がたくさんあればと願う。

- ・介護施設で働いている。施設で“神奈川県産”の地産地消食材が食事で提供されると利用者から

「へーそうなの？」と興味を持たれたり「こんなおいしいのに知らなかった！」と反応が良く、食事中的話題になったりする。藤沢市内の学校や保育園などの教育現場や医療、福祉施設でもっと増えるといいなと思う。（地産地消の食材の使用が）年齢に関係なく、その土地に住むならば住むことだけでなく、食べることもその土地になじむといいなと思う。

- ・①福島野菜を応援もかねて注文している。（月 1 回）②パルシステムで購入（毎週 1 回）③スーパー等で購入する場合は県内野菜を意識している。（①②以外に月 3 回位）などで地産地消の情報はあまり持っていない。

- ・“藤稔”など全国でも通用する素晴らしいものもあるのに知っている人も少ない。生産者の支援や育成、市内県内での流通などにもっと力を入れるべきでは。購入場所が限定されている→その直売所にいかないと買うことができない。市の支援でインターネットで流通させるなど可能なのでは？

- ・観光地の飲食店がシラスに頼りすぎ。地元産のシラスはもうそれほどとれないはずなのに。

- ・東京の人は藤沢においしいものなしと思っている。

- ・おいしいものを作って全国の皆がインターネット経由や訪れて購入したいと思っている。本当においしいものがあるなら市役所の方が頑張りアピール。

- ・地産地消に対する考えはこれからの時代に必要不可欠で藤沢だけに限らず各自治体が取り組む課題だと思う。我々、消費者においても体に取り入れる大切なものなので、常に興味関心を持ち、生産者を応援できるよう心掛ける必要を感じている。

- ・地産のものが置いてあるところでパツと思ひ浮かぶのは、「わいわい市場」など JA などのものである。ほかには、横浜市港南区にある京急百貨店の地下に神奈川産の野菜などを置いてあるところが思ひ浮かぶ。

- ・食料自給率の向上を日本全体で考えればよいと思う。

- ・①売っている場所が限定的で少ないので機会が少ない。②消費者はまず、価格と利便性で購入している。③藤沢の「地産地消」のキーワードは「親近感」にあるものと思う。④この街は江の島や海だけでなく境川、引地川藤沢宿に遠藤や用田北部の里山地域に鵜沼や桜花園通とか「心地いい散歩道」が一番の魅力と考える。それは全国的に見ても人後に落ちないものとつまりこの街を散策していると色々な物に出会う動植物のほかに、トマト畑や花の生産、ナシ、ブドウ、キャベツ、キュウリの畑、紅葉や神社などお店、優しい人々、文化、芸術それらが親近感を生む。近所の境川沿いのトマト生け花もよい。瀬郷のトマト植木もよい。市民の方々が楽しんで無理なく参加してきたい。その参加している感覚が大事。

- ・近くには直売所が多くあるのであまり不便とは思わない。

- ・友人、知人、地元の人からお野菜を頂く。無人売り場からも買い求める時もある。何時も新鮮な物があり安心して食している。

- ・藤沢または神奈川のものよりも日本製のものを買いたい。スーパーで何か買おうとすると（中国）の 2 文字が飛び込んできて棚に戻してしまう。ほかのアジア諸国、タイやベトナムのものは気にしてないが、中国だけは最近、特にダメになってしまった。信用の問題。

- ・今は藤沢の野菜/魚/その他収穫しました。ここで買えます情報ですね。

- ・生産者側でも消費者側に顔を見せ要求など聞くことがあってもよいでは。
- ・年を取ってチャンスが少なったが、道路沿いの売店などを見させてもらいたい。少人数になり買い物が恥ずかしいくらい少なったが、できるだけ購入したい。特にトマトは本当においしい。
- ・地産地消はとても実用的だと思う。そしてわいわい市、自宅での野菜直売で新鮮でおいしいものが食べられる生産者にとっても励みになる。
- ・昨今の物価高騰、物流の問題を考えると地産地消という取り組みは重要だと改めて思った。